

## 医薬品への興味深まる 富山大学薬学実習に参加して

◇期 日 令和5年7月31日(月)～8月2日(水)

◇場 所 富山大学薬学部(杉谷キャンパス)

◇参加者 2年普通科理系・理数科学科生徒12名 本校教員

◇指導者:富山大学薬学部の教員、大学院生

富山大学薬学実習では、参加生徒12名が「プロベネシド実験グループ」と「ジフェンヒドラミン実験グループ」の2つのグループに分かれて、それぞれ講義を受け実験を行った。

1日目の午前には有機化学の基礎についての講義と、医薬品のなかでも特に有機化合物がどのように生み出されてきたかの講義を受けた。まだ学校で学習していないことや大学に入学した後初めて学ぶ分野も多かったが、生徒達はみな真剣に聞き入り、医薬品に興味を持つきっかけになった。午後には各グループで実験を開始した。

2日目は今まで見たことも触ったこともない実験器具を扱い実験を行った。1つ1つの実験操作の目的を考え、実験結果から考察を行うことで論理的な物事の考え方を学ぶことができた。

3日目は、合成した薬品を実験動物に投与して効果を調べる実験を行った。大学院生や教授の方々の御指導の下、スムーズに実験を進めることができた。講義では、動物実験の重要性や、実験動物を扱う上で遵守しなければならないルールも学んだ。私たちも実験のためにマウスやモルモットを犠牲にしたことを忘れないようにしたい。

今回の実習では、大学内の研究室や図書館などの設備も見学することができた。実験設備から、大学で行う研究がいかに本格的であるかが伝わってきた。また、薬学と一口にいっても、多種多様な分野があり、化学、生物、物理など多角的な視点から研究する必要がある学問だと分かった。

この実習で、くすりが私たちの生活を健康で豊かにしていること、数えきれないほど多くの病気の人を治していること、そして、くすりの製造がいかに難しいものかを改めて実感した。また、大学生の方々から、進路についての実体験を聞くことができ、私たちの将来を考える参考になった。この3日間は、多くの貴重な体験をさせていただき、とても中身の濃いものであった。最後に、このような機会を設けてくださった、富山大学の先生方や職員の皆様、TAの院生の方々、引率の本校の先生の方々には深く感謝申し上げます。

